

令和5年度（2023年度）
名古屋市立大学大学院薬学研究科
博士前期課程〔創薬生命科学専攻〕
（10月入学）学生募集要項
（特別推薦）

*特別推薦 … 自己推薦による筆記試験の免除制度

学外の優れた資質を持つ学生の受け入れを目的として、一般選抜の筆記試験に替え、志願理由書・外国語（英語）・面接等で適性を評価する制度です。合格後の入学を確約できることを要します。出願資格を有する海外の大学を卒業または卒業見込みの者（日本国籍を有さない者）を対象者とします。

*分野責任者の教員と研究計画等について事前に相談してください。

1 募集人員

創薬生命科学専攻 若干名*

*募集定員には「脳とこころを理解し、それを社会に還元できる人材の育成プログラム」(p.6参照)の入学生を含みます。

2 志望分野の選択

出願者は各分野を第3志望まで選択できます。

3 出願資格

外国人であって、次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は令和5年9月までに修了見込みの者
- (2) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は令和5年9月までに修了見込みの者
- (3) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって(5)の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は令和5年9月までに授与される見込みの者
- (4) 外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学薬学研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者
- (5) 本学薬学研究科において、個別の入学審査により、(1)と同等以上の学力があると認められた者で、令和5年9月30日までに22歳に達する者

(注)出願資格(4)又は(5)により出願しようとする者は、出願資格予備審査を行うので、事前に志望分野の責任者の承諾を得て、封筒の表に「薬学研究科博士前期課程予備審査書類在中」と朱書きし、下記の期間内に予備審査願等(5出願書類等⑩参照)を下記の出願受付場所に書留速

達で郵送してください。期限までに到着しなかった場合は受け付けしません。(期間内消印有効ではありませんから注意してください。)

予備審査受付期間：令和5年5月30日(火)～令和5年6月1日(木)

なお、外国からの郵送による予備審査申請は認めません。国外から申請する場合は、必ず日本国内在住の代理人が申請手続きを行ってください。 本学からの通知も代理人あてに行います。

4 出願期間及び方法

令和5年6月14日(水)～令和5年6月20日(火)〔必着〕

郵送に限ります。窓口受付は行いません。 必要事項を記入した出願書類提出用封筒の表紙<本学所定>を角型2号の封筒(ご自身でご用意ください)に貼り付け、その封筒に出願書類等を入れ、書留速達で郵送してください。

期限までに到着しなかった場合は受け付けません**(期間内消印有効ではないので注意してください)**。

出願書類を受け付けたときは、受験票、試験場案内を後日お送りします。

6月29日(木)を過ぎても届かない場合は、必ず〔学生課入試係薬学研究科入試担当〕にお尋ねください。

<出願・入学等に関する照会先>

<事前協議・研究内容に関する照会先>

〒467-8601
 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
 名古屋市立大学 学生課入試係
 薬学研究科入試担当
 電話 052-853-8020
 (地下鉄 桜通線「桜山」下車3番出口よりすぐ)

〒467-8603
 名古屋市瑞穂区田辺通3-1
 名古屋市立大学 薬学部事務室
 薬学研究科入試担当
 電話 052-836-3402
 (地下鉄 桜通線「瑞穂区役所」下車1番出口から徒歩15分)

なお、外国からの郵送による出願は認めません。国外から出願する場合は、必ず日本国内在住の代理人が出願手続きを行ってください。 本学からの通知も代理人あてに行います。

5 出願書類等

| 書 類 等 | 摘 要 |
|--|---|
| ① 入学願書 写真票 受験票 履歴事項 (入学願書裏面) | [本学所定用紙使用] <ul style="list-style-type: none"> ・写真は、正面、上半身、無帽、背景なし、カラー、縦4cm×横3cm、出願前3か月以内に撮影したものを貼り付けてください。 ・受信場所は、確実に連絡のとれるところを記入してください。 ・職歴のある方は記入してください。 ・外国の学校教育を受けた者は、初等教育(小学校相当)から高等教育(大学相当)まで修了した学校教育をすべて記入してください。 |
| ② 成績証明書 | <ul style="list-style-type: none"> ・在籍又は出身大学等の長が作成したものです。 ・コピーは不可。ただし、外国の高等教育機関(大学等)で発行された証明書で、再発行ができないものについては、コピーの提出を認めます。この場合は、原本は送らないでください。合格者には入学手続き時に原本を持参していただきます。 |

| | | |
|---|------------------------|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語で作成されたものには、日本語訳を任意の様式で作成し添付してください。証明書に直接書き込まないでください。 |
| ③ | 卒業（見込）証明書 修了（見込）証明書 | <ul style="list-style-type: none"> ・在籍又は出身大学等の長が作成したものです。 ・大学院修了（見込）者は、その修了（見込）証明書も大学の卒業証明書等に合わせて提出してください。 ・出願資格(1)により出願する者は、資格を証明する書類を提出してください。 ・コピーは不可。ただし、外国の高等教育機関（大学等）で発行された証明書で、再発行ができないものについては、コピーの提出を認めます。この場合は、原本は送らないでください。合格者には入学手続き時に原本を持参していただきます。 ・外国語で作成されたものには、日本語訳を任意の様式で作成し添付してください。証明書に直接書き込まないでください。 |
| ④ | TOEIC 等の 公式スコア | <p>令和3（2021）年4月1日以降に受験した TOEIC(Listening & Reading TEST)、TOEFL-iBT、または IELTS (academic module) の公式スコアを提出してください。TOEIC なら TOEIC 公開テストの Listening & Reading TEST の公式スコアの原本（TOEIC のホームページからダウンロードし印刷された成績表は不可）、TOEFL なら Test Taker Score Report（受験者用控えスコア票）、IELTS なら Test report form（IELTS スコア公式成績証明書）の原本（コピーは不可）を提出してください。米国 ETS から本学（Nagoya City University-Entrance Examination Division DI コード：B212）へ送付依頼をする場合は、出願期日までに到着するように依頼してください。出願期間前に本学あてに届いた成績表も受付可とします。ただし出願を取りやめた場合であっても、成績表の返却は行いません。なお、令和5年4月以降に実施された TOEIC Listening & Reading 公開テストの成績を提出される場合は、出願書類を送付する前に学生課入試係（TEL 052-853-8020）へご連絡ください。</p> <p><u>英語試験は必ず出願期間に成績が提出できる回を受験してください。</u></p> <p>*なお、各々、次に示す点数相当以上の英語力を有することが望まれます。ただし、この点数は出願資格とするものではありません。</p> <p>TOEIC 650 点、TOEFL-iBT 69 点、IELTS 4.5 点</p> <p>*提出された公式スコアは返還しません。</p> <p>*薬学研究科が定める計算式により換算して外国語（英語）の得点を決定し、合否判定の資料とします。なお、複数のスコアが提出された場合は、換算の結果最も高い得点を採用します。</p> |
| ⑤ | 志願理由書 | <p>[本学所定用紙使用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記入は日本語または英語で行うこと。 |
| ⑥ | 入学誓約書 | <p>[本学所定用紙使用]</p> |
| ⑦ | 受験許可書 | <p>[本学所定用紙使用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現に在職中の者で入学時までには休・退職をしない者は、所属長の受験許可が必要です。 |
| ⑧ | 受験承諾書 | <p>[本学所定用紙使用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予め志望分野の教員と研究内容等について相談のうえ、出願してください。 ※第一志望分野のみ提出 |

| | | |
|---|------------------------|--|
| ⑨ | 入学検定料等 (30,344円) | <ul style="list-style-type: none"> ・入学検定料等は、振込依頼書（本学所定のもの）を使用し、必要事項を記入のうえ、30,344円（入学検定料30,000円＋受験票等送付のための速達郵便料金344円）を添えて銀行などで振込んでください。 ゆうちょ銀行（旧郵便局）では取り扱いません。また、ATM等は使わず必ず窓口で振込んでください。 ・振込手数料は、志願者本人の負担となります。 ・銀行などから受け取った「検定料等納付証明書（B票）」を他の出願書類と一緒に提出してください（「振込金（兼手数料）受領書（A票）」は、入学志願者が保管するものですから注意してください）。 <p>※ 既納の入学検定料等は原則として返還しません（後記12(4)参照）。</p> |
| ⑩ | あて名用シール | <p>[本学所定用紙使用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返信先を明記してください。受験票等の送付及び可否を通知するときに使用しますので、確実に受領できる住所・氏名を記入してください。 |
| ⑪ | 住民票 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の者で在留資格がある者は提出してください。（※個人番号（マイナンバー）が省略された住民票を取得してください。取得した住民票に個人番号が記載されている場合は、油性ペンなどを使用して塗りつぶし、完全に見えない状態で提出してください。）在留資格期間が短期の者は、パスポートに押された日本の査証の写しを提出して下さい。 ・国外在住者が出願する場合は、パスポートの写しを提出して下さい。 |
| ⑫ | 予備審査願等 (3出願資格(注)参照) | <p>3 出願資格(4)、(5)により出願しようとする者は、予備審査受付期間中に以下の書類をすべて提出してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[本学所定用紙使用] 予備審査願、履歴書、志願理由書、研究計画書（外国語で作成されたものには、日本語訳を任意の様式で作成し添付してください。）、日本語能力調査票、返信用封筒（長形3号。返信先を明記し、344円分の切手を貼ってください） ・5 出願書類等の②、③ |
| ⑬ | 出願書類提出用封筒 | <ul style="list-style-type: none"> ・出願書類提出用封筒の表紙<本学所定>に必要事項を記入してください。自身で用意した角型2号の封筒に表紙を貼り付け、出願書類を封入し、学生課入試係宛て郵送してください。封筒の表紙はウェブサイトからダウンロードすることも可能です。 <本学ウェブサイト> https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/graduate/phar/index.html |

6 障害等を有する入学志願者との事前相談

障害等がある入学志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、出願前までに必ず〔学生課入試係薬学研究科入試担当〕(P.2)まで申し出てください。

7 入学者選抜期日及び方法

○新型コロナウイルス感染症の状況によっては、ウェブサービスによる試験を実施する場合があります。

(1) 特別推薦選抜試験の期日、時間、科目等

| 試験日 | 試験時間 | 試験科目 |
|-------------|--------|------|
| 令和5年7月8日(土) | 10:00~ | 面接 |

選抜方法

- ・ 選抜は、志願理由書、英語スコア、面接、成績証明書を総合して行います。
- ・ 詳細は受験票とともに案内を送付します。

8 合格発表

令和5年7月18日(火) 10:00

薬学研究科玄関において合格者の受験番号を発表するとともに、本人あて合否を通知します。

※合格者には入学手続期日や必要書類などの入学手続についての案内を送付しますので、必ず確認してください。

※合格発表日後1週間を過ぎても届かない場合は必ず〔学生課入試係薬学研究科入試担当〕まで連絡してください。

9 入学手続

(1) 手続期日(予定)

令和5年8月上旬

具体的な日時は合格通知に併せてお知らせします。

(2) 手続方法

合格通知に併せて詳細をお知らせします。

(3) 入学手続時に必要な経費

| | | |
|-----------------|---------|----------|
| ア 入学料 | 名古屋市住民等 | 232,000円 |
| | その他の者 | 332,000円 |
| イ 学生教育研究災害傷害保険料 | | 1,750円 |
| ウ 学研災付帯賠償責任保険料 | | 680円 |

注1 入学金は入学手続時までに金融機関で納付して下さい。**既納の納付金は返還しません。**

注2 名古屋市住民等とは、①入学者 又は ②入学者の配偶者若しくは1親等の親族が、入学の日において同日の前から引き続き1年以上の期間、名古屋市内に住所を有していたことを住民票により証明できる者を指します。

10 授業料

年額 535,800円 (前期・後期分 各267,900円)

- 注1 授業料は、入学後、年2回(前期・後期)に分けて納めてください。(口座引落)
- 注2 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。
- 注3 必要な諸経費について別途徴収することがあります。

11 奨学金制度

日本学生支援機構において大学院学生に対する貸与制度があります。

希望者については本学において、学業成績及び研究能力等を審査のうえ推薦手続をとります。

12 注意事項

- (1) 出願書類等が不備の場合は受理しません。
- (2) 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。
- (3) 出願書類等は返還しません。
- (4) 既納の入学検定料等は返還しません。ただし、以下の場合は、納入された入学検定料等から手数料を差し引いた入学検定料のみを返還しますので、本学ウェブサイトをご覧ください。
 - ① 二重で振込みをした場合
 - ② 入学検定料等の振込み後、出願書類を提出しなかった場合(出願が受理されなかった場合も含む)
- (5) 受信場所を変更した場合は、直ちに〔学生課入試係薬学研究科入試担当〕に連絡してください。
- (6) 二重学籍は原則禁止とします。

13 脳とこころを理解し、それを社会に還元できる人材の育成プログラムについて

- (1) 本プログラムは、文部科学省「2022年度国費外国人留学生の優先配置を行うプログラム」の採択に伴い、文部科学省の定める重点地域等から留学生(国費・私費ともに)を受け入れ、博士前期課程2年、または後期課程3年間に英語による講義、演習、指導等を通じて、脳神経科学を幅広く学びこれを社会に還元することを目指す新規プログラムを設置し、高い国際性を有する高度社会脳神経科学人材を育成することにより、世界的な視野で活躍できる研究者・技術者・行政官等の輩出を図るとともに、日本と新興国を中心とする国際的脳神経科学ネットワーク形成を目指すものです。※
- (2) 募集定員の枠内で「脳とこころを理解し、それを社会に還元できる人材の育成プログラム」について若干名募集します。出願できる者は名古屋市立大学大学院薬学研究科博士前期課程の入学試験に合格し、令和5年10月入学が決まっている者とします。本プログラム履修者は、入学試験に合格した者の中から 学内選考を経て決定します。

※本プログラムを履修する学生は、「脳とこころを理解し、それを社会に還元できる人材の育成プログラム」の修了要件に加え、薬学研究科博士前期課程の修了要件を満たす必要があります。

14 個人情報の取り扱い

個人情報については「名古屋市個人情報保護条例」に基づいて、次のとおり取り扱います。

- (1) 個人情報の利用
 - ア 出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報については、入学者選抜業務(出願登録処理、選抜実施、合格発表、入学手続等)を行うため使用します。
 - イ 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報を、今後の入学者選抜及び大学教育の改善のための調査研究や学術研究の資料として利用する場合があります。(調査研究の発表に際しては、個人が特定できない形で行います。)
 - ウ 入学者の個人情報については、教務関係(学籍管理、就学指導等)、学生支援関係(健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等)、授業料徴収に関する業務を行うために利用します。
- (2) 業者への委託
上記(1)の各業務での利用に当たっては、個人情報の適切な取り扱いに関する契約を締結し

た上で、一部の業務を外部の事業者に委託することがあります。

15 アドミッション・ポリシー

名古屋市立大学は、「全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす」ことを大学の基本的理念として掲げ、大学院教育では、大学院生への研究指導は研究活動の活性化の一環であるとの認識に基づき、高度な専門性と学際的視点を備えた研究者及び職業人を育成することを目標としている。

本大学院では、これらの理念や目標のもとに、基本的な専門知識と技術を持ち、高度な専門性と国内外で活躍する意欲と適性を備えた、多様な能力や経歴を有する人材を広く求めている。

(1) 理念・目的・教育目標

薬学研究科は、薬学領域の幅広い知識とそれに基づく深い専門性を修得し、革新的研究を目指し生命薬学、創薬科学、環境衛生薬学、医療薬学に携わる創造性豊かな卓越した能力を有する研究者・技術者の養成を目指している。また、広い視野と高い倫理観を持ち教育、行政及び医療現場等で活躍できる卓越した能力を有する人材の養成も目指している。これらの多岐に亘る高度に専門的な人材を育成するために、当研究科は次のような人を求めている。

(2) 求める学生像

- ・学修と研究に強い意欲を持つ人
- ・幅広い分野に関心をもち、視野の拡大に努める人
- ・研究課題への取り組み方において、問題解決能力の獲得に意欲を持つ人
- ・多様な人材の育成の観点から、異なる学問的背景（薬学以外の学部出身者）を有し、新たに薬学研究を志す人
- ・国際的な人材の育成の観点から、薬学研究を志す海外からの留学生

(3) 修得しておくべき知識の内容・水準

- ・研究遂行に必要な知識と技術を修得するために求められる物質科学・生命科学の学力（大学学部卒業レベル）と語学力を有すること

(4) 選抜方法

志望する教育研究分野に必要な物質科学・生命科学の学力と語学力を有する学生を、以下の方法により選抜する。

【特別推薦】

優れた資質をもつ留学生の受け入れを目的として、一般選抜の筆記試験に替え、志願理由書・外国語（英語）・成績証明書・面接を総合して評価する。

各専門分野で必要とする薬学の基礎知識は成績証明書により、評価する。研究に必要な語学力については、TOEIC 等外国語試験の公式スコアにより評価する。また、志願理由書・面接により研究への意欲、適性、人物を評価する。

緊急時における大学からのお知らせについて

災害の発生時など、緊急時の連絡及び本募集要項の内容から変更する必要がある場合には、本学ウェブサイトにより周知しますので、受験前は特に注意して下さい。

また、受験者本人へ直接連絡する場合がありますので、出願書類には必ず連絡のとれる連絡先を書くようにしてください。

○本学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

敷地内全面禁煙について

本学は、敷地内禁煙を実施しており、学生の皆さんにも、この方針を遵守していただくとともに、大学周辺道路での禁煙にもご協力をいただいております。

新型コロナウイルス感染症の状況により、今後、入学者選抜期日及び方法が変更される場合がありますので、本学ウェブサイト「大学院入試に関するお知らせ」のページを随時ご確認ください。

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/graduate/information/index.html>



大学院の概要

医薬化学講座

| 分野 | 研究内容 |
|---------|---|
| 薬化学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 分子設計に基づく医薬品候補化合物の合成と機能解析・評価 2 化学的手法に基づく生物活性物質の探索・機能解析法の開発 3 活性酸素種・一酸化窒素の生物有機化学 4 光化学と有機化学に基づく細胞制御物質の開発 |
| 精密有機反応学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 酵素と酵素モデルの化学 2 生物機能解明に有用な機能性分子の開発 3 医薬リード化合物の合理的設計と合成、活性評価 4 新概念に基づく機能性分子の開発 |
| 薬品合成化学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 特異な構造様式を持つ生物活性物質の全合成研究 2 生物活性天然物を基盤とする創薬研究 3 新規分子骨格構築法の開発 4 高選択的合成反応の開発 |
| 機能分子構造学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 遷移金属触媒による多成分ドミノ反応の開発と薬品合成への応用 2 非経験的分子軌道法計算による遷移金属触媒反応の論理的研究 |

生命分子薬学講座

| 分野 | 研究内容 |
|--------------|---|
| 生体超分子システム解析学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 アレルギー反応の研究 2 人工細胞系の構築 3 神経細胞分化や神経回路形成に関わる情報伝達システムの研究 4 開口放出（エクソサイトーシス）機構の研究 |
| コロイド・高分子物性学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 ソフトマター（コロイド、ゲル、高分子、ミセル）の構造形成 2 ソフトマターの秩序化過程の計算機シミュレーション 3 微粒子を用いた診断薬の開発 4 物質拡散と放出制御の研究 |
| 生命分子構造学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 多元的構造生物学アプローチによる生命分子機能の解明 2 疾患機構解明と創薬を目指した糖鎖の生命分子構造学 3 生命分子システムにおける動的秩序形成と高次機能発現の探査 |
| 分子生物薬学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 細胞内オルガネラの研究 2 神経疾患の病態機構の研究 3 エピジェネティクスによる代謝制御の研究 4 細胞内シグナル制御とがん免疫の関連の研究 |
| 薬物送達学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 脳腫瘍や各種がんへの標的化ドラッグ・デリバリー・システム（DDS）の開発 2 経肺投与ナノ・マイクロ粒子DDSの設計 3 難溶性・難吸収性薬物の製剤設計 4 ナノ粒子キャリアーDDSの開発 |
| 多階層生命機能解析学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 オミクス解析を用いた生体分子ネットワークの解明 2 糖鎖の構造機能解析と創薬展開 3 糖タンパク質の生合成システムに関する研究 |

医療分子機能薬学講座

| 分野 | 研究内容 |
|-----------|---|
| 生薬学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 生薬、漢方薬、天然素材に関する医療薬学的研究 2 各種疾患への応用を指向した伝統薬物（漢方薬）の有用性評価と作用機序 3 植物・微生物を素材とする生物機能物質の探索とその創薬への応用 4 植物・微生物二次代謝機能の遺伝子制御と有用物質生産 5 ゲノム情報に基づく薬用資源植物の多様性の解析とその生薬評価への応用 |
| 衛生化学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 サイトカインによる免疫制御機構 2 慢性疾患における分子センサーの役割とシグナル伝達機構の解析 3 腸内細菌を用いた新規DDSの安全性評価 4 結核菌及び他の細菌に対する免疫認識機構の解明と創薬への応用 |
| 遺伝情報学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 mRNAの翻訳と分解の分子機構 2 RNA代謝による遺伝子発現制御 3 外来性ウイルスRNAを分解する抗ウイルス防御 4 癌、神経変性疾患等RNA代謝関連疾患の病態形成の分子機構 5 遺伝子治療をはじめとする臨床応用を目的としたmRNA医薬の開発 |
| 細胞分子薬効解析学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 イオンチャネルの生理機能 2 循環器系難病におけるイオンチャネルの役割 3 平滑筋・心筋・神経・軟骨・免疫細胞の電気生理学及び薬理学 4 新薬開発研究 |
| 病態生化学 | <ol style="list-style-type: none"> 1 脳神経ネットワーク形成の分子機構 2 脳の高次機能（記憶、読字、感情など）発現の分子機構 3 脳神経系難病の原因解明、診断、予防、治療等に関する研究 4 脳神経系疾患に関わるRNA代謝に関する研究 |

医療薬学講座

| 分野 | 研究内容 |
|--------------|---|
| 薬物動態制御学 | 1 薬物動態に関わるトランスポーターの機能と制御機構 2 薬物動態におけるトランスポーターの役割 3 トランスポーターの生理学的及び病態生理学的役割 4 薬物動態の評価及び予測の方法論 |
| 病態解析学 | 1 グリアに注目した脳保護治療 2 腫瘍微小環境に注目したがん治療 3 神経芽細胞腫の自然退縮と悪性化の病態解明 4 動脈硬化の初期病変の病態メカニズム解明 5 破骨細胞に注目した新規骨代謝疾患治療薬の開発 |
| 細胞情報学 | 1 がんの生物学的特性の解明と新規分子標的薬の開発 2 TGFβシグナルとがんの悪性化メカニズムの解明 3 小胞体ストレスをはじめとする細胞性ストレスと生活習慣病発症機構の解明 4 代謝リプログラミングの理解と疾患発症予防への応用 5 医薬品・毒物代謝のストレスによる影響 |
| 神経薬理学 | 1 モデル動物を用いた睡眠覚醒制御の分子機構解析 2 睡眠障害とその治療薬の薬理学的研究 3 苦痛緩和を目指した神経薬理学的解析 4 代謝性疾患における高次脳機能障害と治療薬の探索 5 神経障害による感覚異常の機序解明と治療薬探索 |
| レギュラトリーサイエンス | 1 特異体質性副作用の発症と関連するバイオマーカーの探索研究 2 免疫性副作用の発症機構の解明に関する研究 3 大規模医療情報を用いた副作用発生の実態調査と薬剤疫学的研究 4 医薬品の国際共同開発の推進を目指した東アジアにおける民族的要因に関する研究 5 臨床研究での試験デザインに関する研究 |
| 臨床薬学 | 1 ヒトiPS細胞の腸管上皮細胞及び脳毛細血管内皮細胞への分化と創薬研究への応用 2 B型肝炎ウイルスの治療薬評価系の開発と新薬の代謝・毒性評価に関する研究 3 糖尿病による血管障害機序の解明と薬物療法の検討 4 薬剤師業務の科学的分析と生涯学習のための研修開発 5 薬局を活用したセルフメディケーション業務の研究開発 |
| 病院薬剤学 | 1 医薬品適正使用のための副作用発現危険因子および医療費・医療制度に関する研究 2 医薬品使用が生活の質（QOL）に及ぼす影響に関する研究 3 医薬品適正使用や健康増進への行動変容につながる支援・教育の確立に関する研究 |

連携大学院

| 分野 | 研究内容 |
|------------------------------|---|
| 腫瘍制御学 (愛知県がんセンター研究所) | 1 がんの発症・悪性化における微小環境の役割に関する研究 2 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索 3 がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基盤構築 4 がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明 |
| 加齢病態制御学 (国立長寿医療センター研究所) | 1 アルツハイマー病の発症メカニズムの解明 2 アルツハイマー病の進行を遅らせる治療薬標的の探索 3 神経変性疾患の病態形成におけるグリア細胞機能の関与に関する研究 |
| 医薬品質保証学 (国立医薬品食品衛生研究所) | 1 ジェネリック医薬品の生物学的同等性評価と品質確保に関する研究 2 タンパク質医薬品の製剤および工程設計に関する研究 3 再生医療等製品の品質管理・品質保証・安全性確保に関する研究 4 ヒトES・iPS細胞などの多能性幹細胞に由来する臨床用細胞の品質・安全性評価法の開発 |
| 生命動態制御学 (自然科学研究機構) | 1 細胞内シグナル伝達のシステム生物学とその研究 2 蛍光タンパク質を用いた細胞内シグナル伝達系の可視化と定量化に関する研究 3 分子動力学シミュレーション手法の開発とタンパク質への応用 4 神経変性疾患を引き起こすタンパク質凝集体の形成メカニズムの理論的研究 |
| 医薬品医療機器審査科学 (医薬品医療機器総合機構) | 1 医薬品の品質、有効性及び安全性の評価に関する研究 2 医療機器の品質、有効性及び安全性の評価に関する研究 3 再生医療等製品の品質、有効性及び安全性の評価に関する研究 |
| がん治療学 (公益財団法人がん研究会) | 1 がんの治療薬耐性メカニズムの理解と耐性克服法の探索に関する研究 2 がんにおける多様性の理解とそれを考慮した治療戦略の構築 3 ゲノム情報に基づく個別化免疫療法の開発に関する研究 4 がんの転移メカニズムの理解と転移制御薬の開発に関する研究 |

名古屋市立大学院薬学研究科（薬学部）所属教員一覧

(2023年5月1日現在)

| 講座 | 分野 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 |
|------------------------------------|--------------|--------------------------|----------------|----------------|----------------------|
| 医薬化学 | 薬化学 | 中川 秀彦 | | 川口 充康 家田 直弥 | |
| | 精密有機反応学 | 梅澤 直樹 | | 久松 洋介 | |
| | 薬品合成化学 | 中村 精一 | | 池内 和忠 | |
| | 機能分子構造学 | | 池田 慎一 | | |
| 生命分子薬学 | 生体超分子システム解析学 | 平嶋 尚英 | 田中 正彦 | | 鈴木 瑠理子 |
| | コロイド・高分子物性学 | 山中 淳平 | 奥菌 透 豊玉 彰子 | | |
| | 生命分子構造学 | 加藤 晃一 (兼任) | | 矢木 真穂 | |
| | 分子生物薬学 | 白根 道子 | 中津海 洋一 | | |
| | 薬物送達学 | 尾関 哲也 | 田上 辰秋 | | 小川 昂輝 |
| | 多階層生命機能解析学 | | 矢木 宏和 | | |
| 医療分子機能薬学 | 生薬学 | 牧野 利明 | 石内 勘一郎 | 寺坂 和祥 | |
| | 衛生化学 | 肥田 重明 | 伊藤 佐生智 | | 小川 勇 |
| | 遺伝情報学 | 星野 真一 | 宇田川 剛 | | 稲垣 佑都 |
| | 細胞分子薬効解析学 | 山村 壽男 | | 鈴木 良明 | 近藤 るびい |
| | 病態生化学 | 服部 光治 | 河野 孝夫 | | |
| 医療薬学 | 薬物動態制御学 | 湯浅 博昭 | | 保嶋 智也 | 山城 貴弘 |
| | 病態解析学 | 青山 峰芳 | | | 青木 啓将 鳥内 皁暉 |
| | 細胞情報学 | 林 秀敏 | 井上 靖道 | 宮嶋 ちはる | |
| | 神経薬理学 | 糸 和彦 | 富田 淳 | | |
| | レギュラトリーサイエンス | 頭金 正博 | | 安部 賀央里 | 柴田 侑裕 |
| | 臨床薬学 | 松永 民秀 鈴木 匡 | 岩尾 岳洋 | 坡下 真大 堀 英生 | |
| | 病院薬剤学 | 舘 知也 | 堀田 祐志 (兼務) | 西出 景子 (兼務) | (病院助教) 真川 明将 (兼務) |
| 附属研究所 創薬基盤科学研究所 | | | | | |
| 腫瘍制御学 (連携大学院) 県がんセンター研究所 | | 青木 正博 客員教授 小根山千歳 客員教授 | 藤下 晃章 客員准教授 | | |
| 加齢病態制御学 (連携大学院) 国立長寿医療センター研究所 | | 飯島 浩一 客員教授 | 関谷 倫子 客員准教授 | | |
| 医薬品質保証学 (連携大学院) 国立医薬品食品衛生研究所 | | 佐藤 陽治 客員教授 | 安田 智 客員准教授 | | |
| 生命動態制御学 (連携大学院) 自然科学研究機構 | | 青木 一洋 客員教授 | 奥村 久士 客員准教授 | | |
| 医薬品医療機器審査科学 (連携大学院) 医薬品医療機器総合機構 | | 大澤 智子 客員教授 | | | |
| がん治療学 (連携大学院) 公益財団法人がん研究会 | | 片山 量平 客員教授 丸山 玲緒 客員教授 | 清谷 一馬 客員准教授 | | |